

## HTLV-1母子感染予防対策(長崎)

日野茂男

要約：1987年8月より，HTLV-1地域内流行に対する母乳感染の重要性を証明するも  
っとも確実・安全・容易な方法としてキャリア母親による母乳哺育回避介入試験を行っている。  
この介入試験は1989年8月末に2年を経過した。母乳哺育回避により母子感染の大部分は  
防止されるが，約3%感染例が残り母乳以外にも感染経路の存在が示唆された。

見出し語：HTLV-1，母乳感染，感染予防，長崎県

研究方法：長崎大学を中心とするグループは  
1986年までの血清疫学的研究，実験ウイルス  
学的研究を通して，HTLV-1の地域内流  
行の主たる原因は母乳感染と考えた。この作  
業仮説の積極的証明には，キャリア母親によ  
る母乳哺育回避がもっとも確実・容易である。

この目的で，HTLV-1キャリア母親に  
よる母乳回避介入試験を長崎大学では198  
6年8月より，長崎大学，国立長崎中央病院，  
長崎県，日本母性保護医師会長崎県支部，日  
本小児科医協会长崎県支部の協力による長崎  
県ATL母子感染防止研究協力事業連絡協議

会のもとで，長崎県下では1987年8月よ  
り開始した。県外ではこの作業仮説を既知の  
医学的知識と踏まえ，医療行為として母乳哺  
育遮断を進める地域もある。母乳回避による  
感染防止策が妥当な地域を検討することも目  
的のひとつである。

方法：(1)長崎県下の妊婦にHTLV-1  
の病原性・感染経路等を説明し，希望者に抗  
HTLV-1抗体の検査を行う。(2)検査  
は2段階とし，凝集法・蛍光抗体法・免疫ブ  
ロット法により，確実に陽性と判定される者  
を対象とする。第2段階検査は，長崎大学医

表1. HTLV-1キャリア母親の哺育法による累積母子感染率(1989年8月末現在)

年齢	人工栄養		混合栄養		母乳栄養	
	陽性者/検査例	陽性率	陽性者/検査例	陽性率	陽性者/検査例	陽性率
1	7/303	2.3	4/66	6.1	9/38	23.7
1.5	5/208	2.4	4/58	6.9	5/25	20.0
2	4/133	3.0	2/46	4.3	3/18	16.7
3	0/49	0.0	0/12	0.0	0/4	0.0

学部・国立長崎中央病院の2ヵ所で行い、データの集積を計る。(3)キャリア母親は出産前に人工哺育・母乳哺育を選択する。人工哺育を選択した者は、ホルモンで母乳分泌阻止する。(4)出産後児の追跡を3年まで行い、感染の有無を検査する。(5)主治医以外の院内職員は患者に應對しない、キャリアのみに対する文書の発行はしない、等個人情報秘保持に万全を期する。

結果：

(1) 現在本研究は進行中であるが、進捗状況は表1に示す。長崎県下の検査を受ける妊婦は約80%、その約5%が抗体陽性で、約80%が人工栄養哺育を選択する。プログラム導入以前の母子感染率、母乳哺育による母子感染率は約20-30%、人工哺育による感染率は約3%である。人工哺育・情報の守秘等に対する問題は発生していない。

(2) 市販の凝集法で陽性となる妊婦の約1/3は偽陽性と推定され、信頼度の高い検査を

行うには検査法の改良が必要である。

考察：

母乳によるHTLV-1感染を介入試験で阻止し、HTLV-1の母乳感染を証明する試みは、今のところ順調に経過している。母乳を主として哺育する場合の約1/10に低下しよう。しかしながら、母乳以外にも感染経路が存在する。抗体検査法の確度、対費用効果からみて、真のキャリア率が1%を超えない地域での介入試験には問題が多い。

本研究の補助の大部分：

文部省特定研究費バイオがん  
文部省がん特別研究費

研究協力：

長崎大学医学部細菌学・産婦人科学・  
小児科学教室、国立長崎中央病院  
日本母性保護医協会長崎県支部、日本小  
児科医協会長崎県支部、長崎県  
各婦人科・小児科医。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:1987年8月より,HTLV-1 地域内流行に対する母乳感染の重要性を証明するもっとも  
確実・安全・容易な方法としてキャリア母親による母乳哺育回避介入試験を行っている。  
この介入試験は1989年8月末に2年を経過した。母乳哺育回避により母子感染の大部分は  
防止されるが,約3%感染例が残り母乳以外にも感染経路の存在が示唆された。